2010年10月1日　ア　ク　セ　ス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第405号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

戦争博物館建設の夢――

中田忠夫の願う平和

戦争を知らない若い世代に戦争が引き起こした大惨事を知ってもらいたいとの願い

文・池宮城 拓

『大日本帝国陸海軍　軍装と装備　明治・大正・昭和　２』
Ａ４判　オールカラー　３９２頁　定価３６２０円＋税

日本はもとより海外でも軍装品マニアでＮＡＫＡＴＡ－ＳＨＯＴＥＮの名前を知らない人はいないだろう。だが店主の中田忠夫は決して戦争マニアでも好戦家でもない。

中田は２０歳の頃は、銃器やその他の戦争を思い出す品物は二度と見たくないと考えていた。戦時中は若すぎたため軍隊に入れなかったので志願して中国に渡った。収容所の同胞たちの世話をしていたのだが、日本に送還されるまでに四名の仲間を埋葬した。以来中田は、戦争は歴史の一部分にすぎないが、その遺物は、どうしても保存しておかなければいけないと思うようになった。

紆余曲折を経て東京のアメ横で、軍服などを販売するサープラスショップ中田商店を経営するようになった。店が除々に軌道に乗ると売り上げは日一日と伸び、狭い店内は連日客でごったがえして大騒ぎだった。週刊誌や少年雑誌の取材を受け、マスコミに紹介されると一段と拍車がかかった。手元には多額の現金が入ってきた。大陸から引き揚げてきた中田は、次の世代の若者に第２次世界大戦時代のことを知ってもらいたいと思うようになった。

昭和４０年、終戦記念日である８月１５日、１３名の少年を沖縄に送り出した。沖縄は当時、地上戦となった場所や日本軍が立てこもった洞窟がそのまま残っていた。少年たちに日本軍や米軍の兵器、兵士の遺品が散乱する地に立って、戦争の一端に触れてもらいたかったのである。見学を終えて東京に戻って来たかれらは、洞窟に散らばる遺品を持ち帰ってきた。それらを見て中田はショックを受けた。フレームだけの眼鏡、泥にまみれた時計や編上靴などであったが持ち主をたどれる手掛かりは何もなく、遺族の方々に返す手だてはない。遺品を自宅に持ち帰り蒲団の上に並べて、一夜を明かした。その後、これらを客でごったがえす店に展示した。自分が受けた衝撃をできるだけ多くの人に知ってほしかった。戦争のむごたらしさを風化させてはならないと考えた。

ある日、店に年配の女性３人がやってきた。一番年上の人が「相談したいことがあるのです」と口を開いた。「過去の亡霊のような存在である日本軍の軍服などを、どうして店に飾っているのですか。戦争を利用して金もうけなどせずに、自粛して下さいませんか」と言うのだった。「私は決して戦争を食い物にしているつもりはありません。金もうけなら他にいっぱい売る物はあります。若い人たちにも戦争のことを知っておいてもらいたいので、軍服などを扱っているのです」と話した。しかし中田の心中は〈戦死者の遺品まで展示して、客を集めたいのか〉と自分の行為を行過ぎだと責める声と、〈戦争の悲惨さを風化させないためにも、もっともっとがんばれ〉という二つ声がいつもあった。

戦争資料の集大成の写真集を上梓

戦争博物館を建設して戦争を知らない若者たちに公開することを考えた。７０歳になるまでにそれを達成するのが、大きな目標になっていった。しかし日本では実物の銃器類の展示は法律で禁じられていて実現は難しいと思われた。昭和３７年暮れに六人部登（むとべ のぼる）青年と知り合った。彼が店に１．５メートルほどの船の模型を二人で抱えて入ってきたのである。そしてぶっきら棒とでもいうような口調で、「模型の船を買ってくれませんか」と言った。話を聞きながら中田は尋ねた。「これほど精巧な模型が作れるなら、

ピストルや軽機関銃、重機関銃はできないか？」、「旋盤とフライス盤があればどうにかなります」と言うのだった。六人部青年と出会ったことで、戦争博物館建設の夢が叶えられそうになった。兵器類を模型にすればよいのだと思い当たったのである。

昭和６０年の暮れ、すでに完成していた妻沼の戦争博物館準備館に一台の大型トレーラーがやってきた。準備館の中庭にＫＡＭＯＶ　Ka-26 1965年型のソ連軍のヘリコプターが搬入された。建設予定の博物館の収蔵品と展示品はすべて揃えた。

８０歳を過ぎた現在の中田は、１日も早く戦争博物館を建てることを心に誓っている。無念の内に死んでいった人々の霊をなぐさめるには、大戦に関する遺品に正しく歴史的な資料価値を発揮できる場所を提供することだ、と信じている。

中田忠夫が軍装品販売を通じて実践してきたことは、戦争を知らない若い世代に戦争が引き起こした大惨事を知ってもらいたいとの願いが込められている。

平成２２年『大日本帝国陸海軍　軍装と装備　２』を上梓した。

中田が半世紀以上かけて収集した明治、大正、昭和の戦争資料の集大成の写真集である。

（いけみやぎ　たく／㈱ 池宮商会出版部担当）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『朝日のあたる川　－赤貧にっぽん釣りの旅二万三千キロ』●真柄　慎一著

釣り好きならば誰もが憧れる「釣りをしながら日本一周の旅」。それを実現したのが著者。ミュージシャンを目指し、山形から上京したが、夢叶わず、次に熱中したのがフライフィッシング。友人や彼女、釣り仲間にも恵まれ、皆の思いを背負って南から北へ軽ワゴンを走らせる。北海道のウトロでは釣り上げたカラフトマスの美しさに感動する。地元の人々と触れ合い、パンクなどのトラブルも乗り越え、大自然を満喫し、うまい酒を呑みながら、29歳の半年間の旅は終わるが、釣りの情景はもちろん、山と海と川に囲まれて生きる人々の暮らしぶりも伝わってくる。釣魚や風景のモノクロ写真も秀逸。

◆1200円・新書判・263頁・**フライの雑誌社**・東京・2010/8刊・ISBN978-4-939003-41-7

『ブナの林が語り伝えること　－プロシア人　R・ガルトネル七重村開墾顛末記／北方新書０１２』●田辺　安一著

樹齢１４０年「ガルトネルのブナ林」といわれる小さな森が、函館の北、七飯町にある。１８６９年、プロシア（現ドイツ）の貿易商ガルトネルが、蝦夷共和国総裁榎本武揚と、七重村開墾地１０００ヘクタールを９９年間借りる条約を結んだことに端を発する。その後すぐにこの条約は、北海道開拓史上の有名な外交問題「ガルトネル事件」となったが、そのブナ林は事件を今に伝える痕跡である。本書ではその顛末が詳細に明らかにされるとともに、幕末から明治にかけての、欧米列強に囲まれたわが国の激動の様子がひしひしと伝わってくる。なお、ガルトネルが提出した開墾地の農業計画は、麦、養蚕、牧畜は有望だが水稲は困難・・・等々、非常に興味深い。

◆1260円・新書判・274頁・**北海道出版企画センター**・北海道・2010/6刊・ISBN978-4-8328-1007-5

『水木しげるロード熱闘記　－妖怪によるまちづくり　境港市観光協会の挑戦』●桝田　知身著

まんがでの町おこしが広がっているが、境港市を除いては大方閑散としている。作家のネームバリューに安易に寄りかかった当然の結果であり、「熱闘」する主体者の不在によるものだ。運送会社社長をリタイアしていた著者に、突然観光協会会長と水木しげる記念館館長就任が要請された時、境港も１０年を経過して客足は減少化の兆しを見せていた。全国にスポンサーを募った妖怪ブロンズ像の設置、妖怪検定、鬼太郎まぐろラーメン、川柳コンテスト、ジャズフェスティバル、空港愛称化キャンペーン。行政主体から、民間の血による自由な発想への転換。４年間で客足は倍増した。その裏話、ノウハウを惜しげもなく公開する。まちおこしは闘いだ。だが、その前にまず自分が楽しまなくちゃ、と。

◆1365円・Ａ５判・217頁・**ハーベスト出版**・島根・2010/7刊・ISBN978-4-938184-79-7

『大町桂月の大雪山　－登山の検証とその同行者たち』●清水　敏一著

大町桂月は土佐で生まれ、十和田湖に近い蔦温泉で没した文人。桂月は終生旅を好み、各地を旅行し、多くの紀行文を書き残していることでも知られている。本書は大正１０年夏、桂月が北海道・大雪山を探勝したときの紀行文を軸に、その踏跡をたどり検証を試みたもの。当時の大雪山はまだ開拓期にあり、山水趣味の文人・桂月が登山紀行するに至った背景や、その同行者たちの人間像を豊富な資料から検証しているのが関心を呼ぶ。また大雪山の桂月ゆかりの地に立つ顕彰碑の由来にもふれている。本書は文人・桂月の大雪山紀行の検証を主題としているが、大雪山の開発史や登山史という側面から見ても大変参考になる著作である。

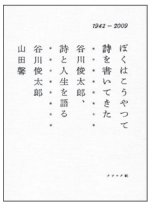
◆2940円・Ａ５判・224頁・**北海道出版企画センター**・北海道・2010/3刊・ISBN978-4-8328-1002-0

売行良好書

期間：2010年8月16日〜9月15日

［出荷センター扱い］ ※税込み価格

(1)『ことばを尋ねて』3045円・天野祐吉作業室　(2)『刑務所の中の中学校』1470円・しなのき書房　(3)『ぼくはこうやって詩を書いてきた』2940円・ナナロク社　(4)『お弁当がすぐできる、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局　(5)『絵本　復刻普及版』1575円・澪標　(6)『絶体絶命を生き抜く』1575円・書肆侃侃房　(7)『内田吐夢の全貌』2940円・エコール・セザム　(8)『親子で楽しむ　割ばし輪ゴム銃工作』1100円・ナナロク社　(9)『小さき者たちの戦争』1680円・南方新社　(10)『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ　(11)『一目でわかる　中国進出企業地図』1995円・蒼蒼社　(12)『朝日のあたる川』1200円・フライの雑誌社



［三省堂書店神保町本店４Ｆ—センター扱い図書］ ※税込み価格

(1)『東京かわら版　９月号』420円・東京かわら版　(2)『酒とつまみ　13号』400円・酒とつまみ社　(3)『円周率１、000、000桁表』330円・暗黒通信団　(4)『昭和プロレスマガジン　21』1000円・昭和プロレス研究室　(5)『長崎游学　4』840円・長崎文献社　(6)『はじめての秋田弁』1050円・無明舎出版　(7)『北条氏邦と武蔵藤田氏』2625円・岩田書院　(8)『シルクロード・中央アジア検定公式テキストブック』1365円・日本ウズベキスタン協会　(9)『遠野物語の旅ガイドとおのあるき』1260円・岩手日報社　(10)『愛知の山城ベスト50を歩く』1890円・サンライズ出版

［ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書］ ※センター出荷データより／税込み価格

(1)『恋するＫ－ＢＯＹＦＲＩＥＮＤ　２０１０　ＳＵＭＭＥＲ　ＳＰＥＣＩＡＬ』1890円・エイチ・シー・ピー　(2)『長崎游学４』840円・長崎文献社　(3)『パズル通信ニコリ　Ｖｏｌ．１３２』882円・ニコリ　(4)『円周率１、０００、００００桁表』330円・暗黒通信団　(5)『酒とつまみ　第１３号』400円・酒とつまみ社　(6)『電子出版学入門　改訂２版』1260円・出版メディアパル　(7)『日々　１２』735円・アトリエ・ヴィ　(8)『ＨＢ　ｖｏｌ．７』500円・ＨＢ編集部　(9)『素敵なフランス語のフレーズ３６５』1575円・カラーフィールド　(10)『ＤＶＤ　これを見ればドラッカーが６０分でわかる』2940円・アップリンク

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
http://www.bekkoame.ne.jp/~much/

トピックス ―― ★★★

▼『野宿入門』
『人生をより低迷させる旅コミ誌　野宿野郎』の編集発行人・かとうちあきさんが9月下旬、草思社から『野宿入門』（1050円）という単行本を刊行することになりました。かとうさんは若い女性ながら、テレビやラジオなどにもしばしば出演し、今や野宿界（？）の権威といっていい存在。野宿旅に出かける度にご当地缶コーヒーなどをお土産に買ってきてくれたりします。是非、書店店頭で手にとってみてはいかがでしょうか。因みに『野宿野郎』は7号まで刊行されていて、6号が品切。他に『風呂なし野郎』（定価100円）という、かとうさんお手製のミニコミもあります。通販か、ごく一部の書店で入手可能。

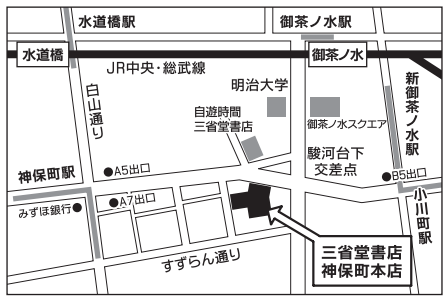
▼長谷川書店で地方小フェア
大阪の長谷川書店島本店および水無瀬店で、９月から１０月にかけて地方小フェアを催していただくこととなりました。詳細は〈http://walkingreader.blog60.fc2.com/〉にて。『野宿野郎』もラインナップに入っています。ほかに『昭和プロレスマガジン』等。

▼ＴＶドラマ『塀の中の中学校』が本に
10月11日午後9時より、ＴＢＳ系ネットで全国放映される予定のＴＶドラマ『塀の中の中学校』（脚本・内館牧子、出演・オダギリジョー、大滝秀治、渡辺謙、千原せいじ、蟹江敬三など）の原点とも言うべき本、『刑務所の中の中学校』（角谷敏夫著・1470円）が長野のしなのき書房から8月に刊行されました。昭和30年に誕生した、日本で唯一刑務所の中にある公立中学校・松本市旭町中学校桐分校が舞台。著者の角谷氏は、35年間この桐分校に勤務した元教官で、このドラマの企画協力者となっています。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３〜４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店　営業のごあんない
BOOKS SANSEIDO
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM〜8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。